

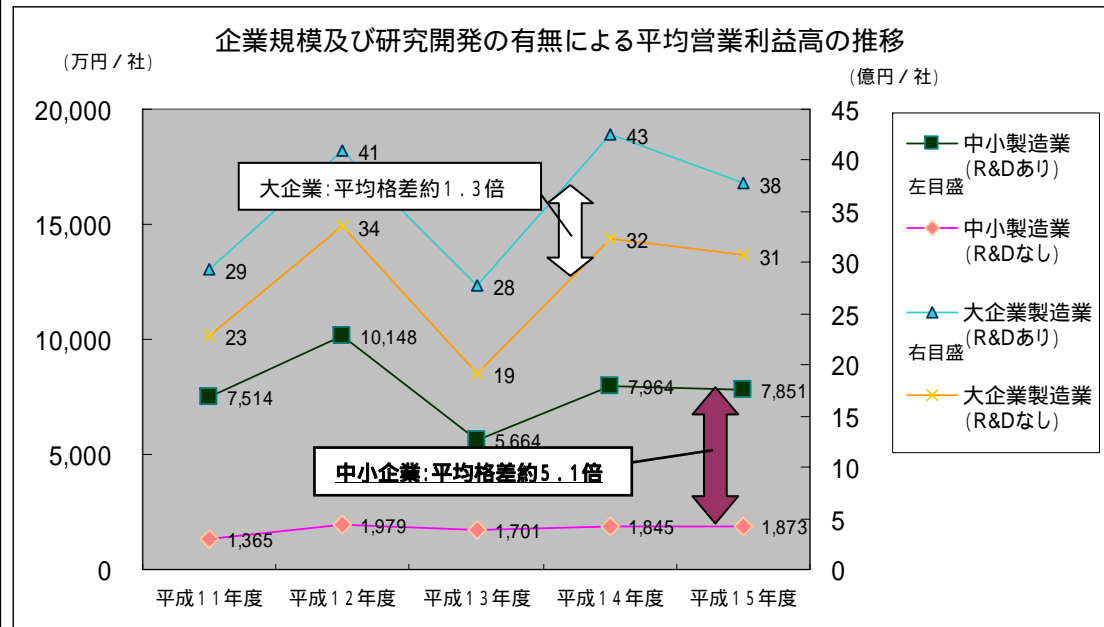
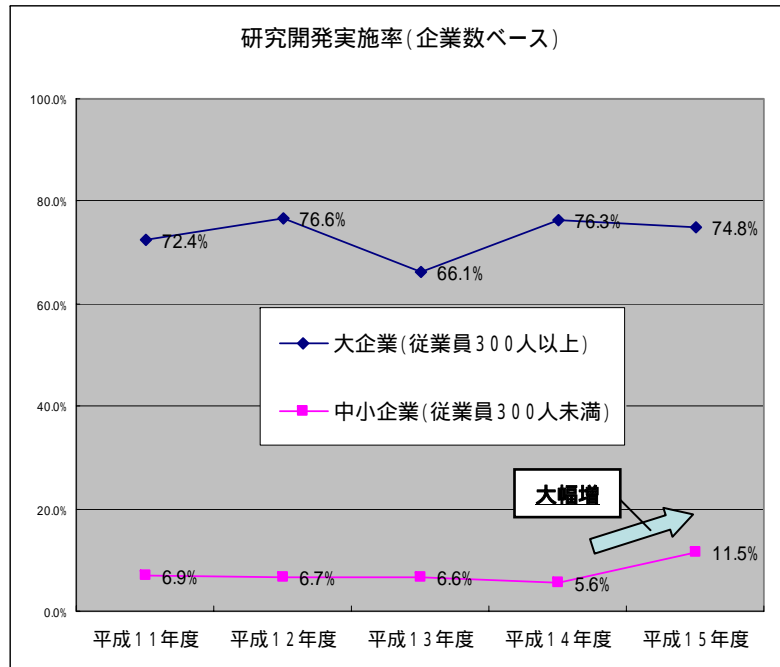
製造業の基盤技術を担う 中小企業の研究開発の現状等

平成17年10月13日(木)
経済産業省中小企業庁技術課

中小企業における研究開発の重要性

製造業において研究開発に取り組む企業の比率は、依然として大企業 - 中小企業間の格差は大きいものの、平成15年度より大幅に増加しており、積極的に研究開発に取り組み経営基盤を強化しようとする姿勢が窺える。

また、企業規模及び研究開発実施の有無による1社あたりの利益高を比較してみると、研究開発を実施している企業の平均営業利益高は実施していない企業に比して、大・中小企業とも高い値を示しているが、特に中小企業においてはその差が大きくなっており、研究開発が経営の向上に果たす役割はより多大である。



出典:平成16年度科学技術研究調査報告(総務省統計局)

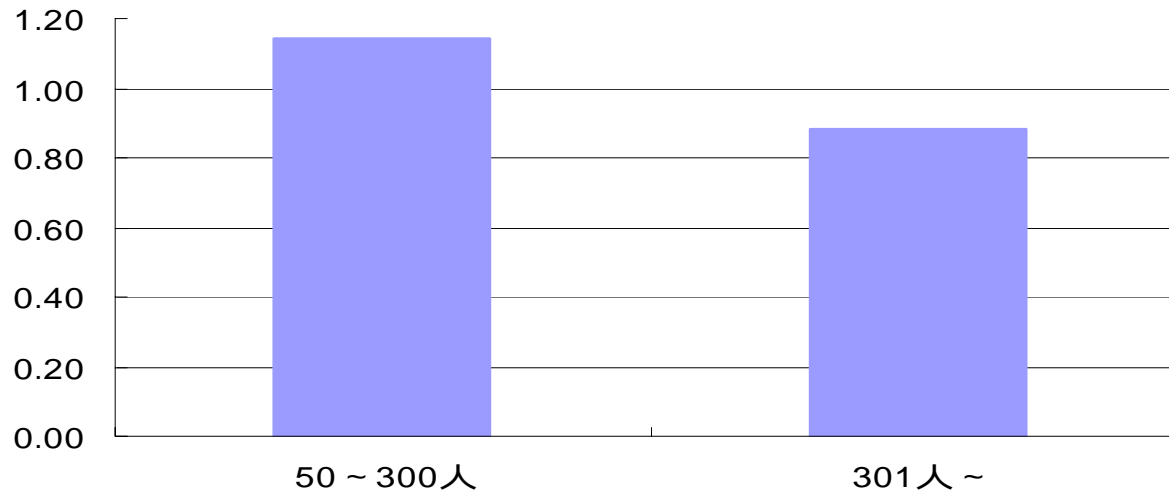
従業員300人未満の企業と中小企業、同300人以上を大企業として算出している。

中小企業が果たす技術革新の役割

● 現在の日本の製造業における全要素生産性成長率を規模別にみると、平均値においては中小企業のほうが大企業よりも大きい。このことから、技術進歩などの面での技術革新において中小企業が活躍していることが想像できる。

中小企業と大企業の全要素生産性成長率の比較

～イノベーティブな活動では中小企業も活躍～



出展: 中小企業白書2004年版

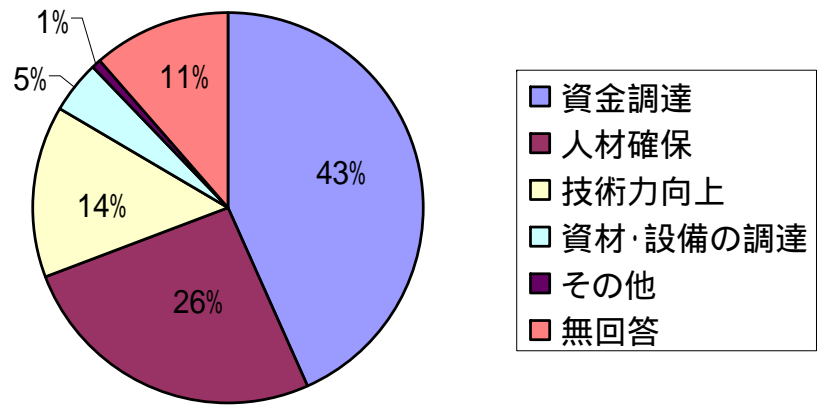
資料: 経済産業省「企業活動基本調査」(1995～2001年)再編加工

- (注) 1. 全要素生産性(TFP)成長率
= 付加価値額増加率 - 労働分配率 × 従業者数増加率 - 資本分配率 × 有形固定資産増加率
2. 数値は1995年から2001年までの年平均成長率をとっている。
3. 「企業活動基本調査」は従業者50人未満企業については調査対象としていない。

中小企業の研究開発を取り巻く状況

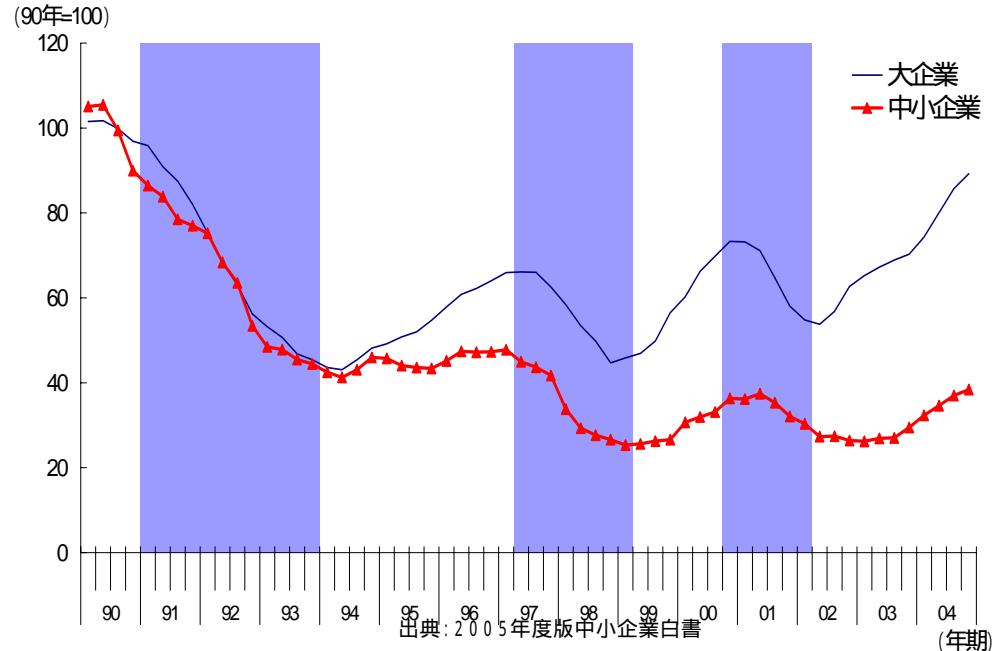
● 中小企業の新事業展開、とりわけ研究開発段階においてどのような面に課題が生じるかをたずねたところ、最も大きいな課題は資金調達である。しかし、中小企業の経常利益を見ても、回復傾向にあるものの、大企業と比べ依然として低水準にあり、研究開発費の捻出が困難な事業者も多いと考えられる。

新事業展開における課題(研究開発段階)
 ~ 貴社において新たな事業を立ち上げようとする場合、研究開発段階においてどのような面に課題が生じるか ~



出典:平成15年度中企庁委託調査「中小企業の創造的
 事業活動の促進に関する臨時措置法(創造法)に係る事業化
 支援策の利用状況とその効果に関する調査報告書」
 (備考)有効回答1240中小企業者等(認定事業者624、特
 定中小企業者329、非認定事業者284)

1社当たり経常利益の動向

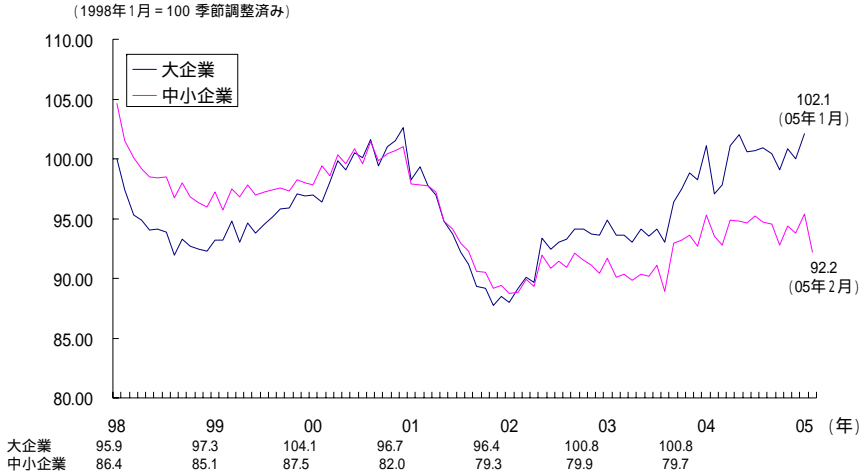


(資料)財務省「法人企業統計季報」
 (備考)1.経常利益を当期推計法人数で除し、90年平均を100として指数化
 2.後方4期移動平均

中小企業の研究開発を取り巻く状況

研究開発費ベースの大半を占める中小製造業の生産動向は、やや増加傾向にあるものの、大企業に比して、回復に遅れ見られる。
 中小企業の景況感については、03年を通じた順調な回復傾向から04年以降反転下降し、現在は踊り場的な局面。本格的な回復については、収益力の向上が一つの鍵となっている。

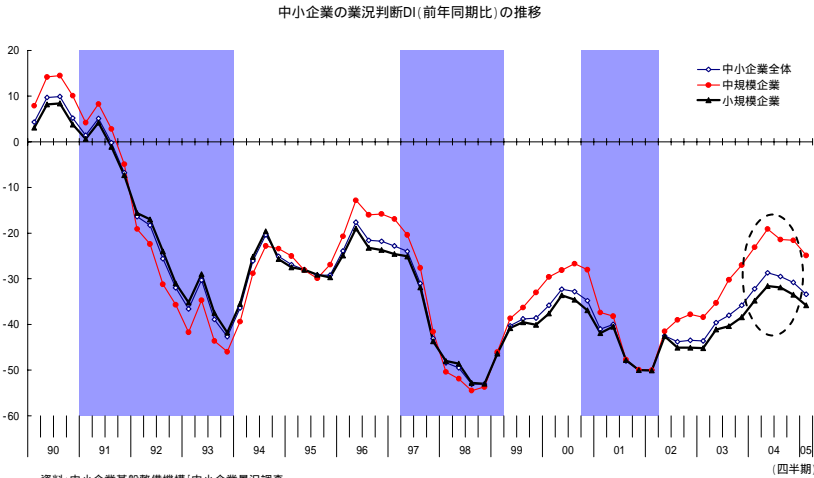
中小製造業の生産動向(1998~2005年)
 ~2004年は前年比3.8%増加しているものの、大企業に比して、回復は遅れている~



備考:各年の値は月次データの平均値である。
 資料:中小企業庁「規模別製造工業生産指数」

出典:平成16年度ものづくり白書

中小企業の業況判断DI(前年同期比)の推移



資料:中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」
 (注)小規模企業とは、従業員20人以下(卸売業、小売業、サービス業については従業員5人以下)の企業をいう。

出典:中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」
 (備考)小規模企業とは、従業員20人以下(卸売業、小売業、サービス業については従業員5人以下)の企業をいう。

(参考資料: 基盤技術を担う産業例の従業員教育費・研究開発費の推移)

< 従業員教育費の総原価に占める割合 >

製造業全体(中小企業のみ)においては従業員教育費比率の上昇傾向が続いている一方、鑄造(銑鉄鑄物)・鍛造(鍛工)・めっきの3業種平均においては、平成元年より一貫して大きく減少しており、人材育成に問題が生じている。

< 研究開発費の総原価に占める割合 >

製造業全体(中小企業のみ)で大きな伸びが続く一方、3業種平均には殆ど伸びが見られず、技術開発を積極的に行えない状況が見える。

